

秋の行事終わる

文化祭

九月十九日から三日間、第五十一回文化祭が行われた。今年のテーマは「The Day of Days」

——記念すべき日——
このテーマに恥じぬよう、文芸の各パートリーダーの下に文芸、クラブ、有志団体が例年を超える努力を見せ、文芸展示、大きく数を増やした企画、完成したケルズ講堂の演劇やアミューズ等の目新しい動きが見られた。

しかし、今年度からの新カリキュラムによる準備期間の圧迫のためか、中止となってしまう企画も数あり、新しい環境での文化祭には、未だ多くの難点が残されている

（講評、表彰は2面）

バッチ チャリティー販売 収益報告

「報告遅くなりましたが、文化祭中のバッチ・チャリティー販売における皆さまのご協力により、ダルニー奨学金に18万円寄付することができました。これでタイの6人の子供たちが3年間学校に通うことができるようになります。これからも、チャリティーバッチを目にする機会が少し減りましたが、そのたびに少しでも優しい気持ちになって頂ければ幸いです。

発行
洛星新聞局
京都市北区小松原南町
☎ (466) 0001
FAX (466) 0777
印刷/梅片桐軽印刷

体育祭

今年度は学校の方針の変更による影響を受け、五クラス編成の学年が四つ、四クラス編成と六クラス編成の学年が一つずつという変則的な体育祭が行われた。今回の体育祭で方針変更の余波をもっとも大きく受けたのは高ⅢFクラスの諸兄であつた。一年生の一クラスのみの構成であることになった彼らは、人員の少なさにも関わらずデコレを仕上げ、応援団を作っていた。素晴らしい事だ。

Eクラスも四学年で構成されているにも関わらず組体操の要素を取り入れたアピールによって応援の優勝をものに取った。

今回のデコレは二バターン作っているクラスが過半数を超えていた。例年通り短い準備期間も、彼らの意気込みを阻むに足らず、といったところか。



さて、次からは各クラス毎に見ていこう。
まずはAクラス。アトラクシオンは清涼飲料水であるアミノサブリのCMキャラクター、アミノシヤール。演技自体は問題なかったが、時間超過は大きな減点である。応援は正統派。



五山送り火 学校二館開放

夏休み中、まだ登校禁止期間である八月十五日の午後七時頃、中央棟のシャッターが、音をたてて巻き上げられていった。

あまり知られていないようだが、この学校は五山の送り火の際、イーストウィング4階のテラスを一般開放している。

近づくにさほど高い建物もなく、観光客の集中による暑苦しい人ゴミや渋滞、交通の便が悪い。交

体育祭成績

応援団

- 優勝Eクラス
中一・中二学年合同
優勝Eクラス
中三学年
優勝Dクラス
高一・高二学年合同
優勝Eクラス
高三学年
優勝Eクラス

衣笠

最近、行事に対する学校側の風当たりが強くなっているように感じる。

まずは文化祭。「文化祭2日案」の提案者の顔を見てみたいと思つたのは私だけではないはずだ。というのも、2日にしてしまつたら、文化祭の華である「審査」が全てなくなつてしまふ可能性がある（というかなんか）からで、それにもかかわらず2日案を提案した人（おそらく教員の誰かだろう）というのは文化祭を潰したいのかもしれない。そして、七時間授業、五時間の「短縮」授業。これらは明らかに文化祭直前の貴重な準備期間を削るものだし、何より7時間授業の後では準備出来る時間があまりない。

次はタプロード。今年はリハールスの日の午前中に答案返却日がある。タプロードというのは、本書は「祈り」であるから撮影は禁止というわけで、その年の「記録」はリハールスに行っている。だからリハの午前中は直前の大事なステージ練習なのだ。その日に答案返却を行うと今年の行事予定を見て知った時に絶句してしまつた。さらに後期中間試験そのものの開始も遅く、キャストの練習への影響も避けられそうにない。

申し込み等は不要で、当日、入口で名前・住所等を書くだけで入場できる。ただし、当然の事だが、先生方もこの絶好のポイントに見えらる。ハメをはずすには少々向かない。

（南のどこかに対抗したいのか）学校側内では行事を強調している。「華やかな行事は、事前の綿密な準備があつてこそ成立する」と文化祭の閉会式で生徒に堂々と語られたことどう対処するのか、学校側の来年度の態度に注目したい。



文化祭合唱表彰

中学合唱

最優秀賞

M3D『さよなら』・『乾杯』

優秀賞

M3B・M2C

優良賞

M3A M2B M2A

高校合唱

最優秀賞

H3D『組曲「柳河風俗誌」より
「梅雨の晴れ間」』・『走る海』

優秀賞

H3B・H3F

優良賞

H3C・H3E・H1D

審査員奨励賞

H1A H1D

文化祭

講

評

中学

合唱

今年は各学年とも学年の差を感じない、前向きな素直らしい合唱でした。伴奏指揮にも素晴らしい人が多く、結果として各クラスの持ち味を十分に活かすことができたクラスが、賞に繋がったと思います。また、新しいタイプの曲に挑戦したクラスも多く、とても良かったと思います。

まずは優良賞から。中3Aクラスは三連符のリズムもよくそろっていて、難しい曲をよく仕上げていると思います。ただ低音が少し弱く、バランスが悪かったのが残念でした。中2Aクラスは聞いていてきれいなイメージが伝わったです。ただ曲想、ブレスという細かい点において詰めが甘い部分が目立ったのが残念でした。中2Bクラスは中2と言う声を出している時期にもかかわらず、中・低音がしっかりしていたのが良かったです。ただ、「なごり雪」は別れの曲にしてはちょっと元気が良くないように思えました。もっと

と曲想を大事にして丁寧に練習していたら、より上を目指せたでしょう。来年もがんばってください。続いて優秀賞。中3Bクラスは音程が流れるように歌っていたので、とても聞きやすいものでした。難曲な分、少し荒削りな面も見られましたが、気持ちよく伝わってききました。また、全体の完成度が高い分、低音の力不足が少し目立ちました。もっとできることが見えていた分、惜しかったです。中2Cクラスは一番印象に残ったクラスではないでしょうか？あのソプラノ、ハーモニ、スケールの大きさに聴き手も魅了されました。感動しました。ただ全体的に少し荒い感じがし、フレーズの始まり方など細かい部分で少し難なのが残念でした。来年もより上を目指してがんばってください。そして最優秀賞の中3Dクラス。ハーモニがよく、

表情もあり、和音の縦の線もそろっており、半音の動きも見事でした。これらはすべてよく練習した結果ではないでしょうか？ひとつあげるとすれば、よく歌っていた分、2曲をもっと雰囲気の違いを演出していたら、より良かったのではないのでしょうか？

高校



まずは奨励賞から。高1Aクラスは合唱経験1年目とは思えないほどまとまっており、雰囲気もとてもよく、全員で合唱しているという感じがよく伝わってきました。ただよくまとまっていた分、三部ではなく、四部編成にしてより難易度の高いものをめざすこともできたように思います。来年以降も今年の経験を生かしてがんばってください。高1Dクラスは曲の難易度も高いことから、総崩れとは言わないまでも、やはり

演劇

が悪かったのはもったいなかったです。そして最優秀賞の高3Dクラス。バランス、パートごとのまとまりも非常によく、男声合唱らしいダイナミクスにもあふれており、まさに非の打ち所がありません。感動をありがとうございます。

次に優秀賞。高3Bクラスは早いペースの部分も緩の緩が非常によくそろって、聞いていて気持ちのいいものでした。ただ、若干の音程の狂いにより、ハーモニが少し崩れてしまったのが惜しかったです。高3FクラスもBクラスと同様にハーモニという面においては若干の乱れが感じられましたが、高音の響きはとてよかったです。ただ、低音が少し弱く、バランス

暗転時の効果など客を劇から逃がさないようにする努力があまりない。終わりの方が中途半端で脚本として主眼が少し伝わりにくかった。キャストが脚本に足を引っ張られすぎていた点が残念です。高2は自作としては面白い脚本に仕上がっており、少年度の藤田君が演技賞を受賞しましたが、ラストのインパクトが足りず、またスポットのぶれや人数不足・練習不足も目立ちました。なお三日目の小講堂での公演はなかなか良かったです。今後もしっかり練習して小講堂の新しい使い方を考えてもらいたいと思います。

今年の中三以上の三学年が脚本を自作するという意欲的な傾向が見られ、審査会でも脚本賞を出してはどうかという意見もありました。既製のものに頼るだけでなく、新しいものを創造する洛星らしい演劇の流れを続けてほしいです。また劇を観る側の態度ですが、中学演劇では不必要な道具・小道具の作り、キャストが走っても崩れない照明などよい点は多く、また

先日開かれた文化祭。毎年恒例の行事であるこの祭りの最中、突如としてクマとウサギが校内に出現するという事件が発生した。彼らは校内をねり歩き、展示を見学したり校門にて激しい頭突き合戦を繰り広げたりと傍若無人な振るまいを見せた。その一方、一般客に手を振ってみたいとフレンドリーな一面もあった。なお、高2演劇にて彼らによく似た人(?)物が確認されており、当局は彼らとの関係調べている。

文化祭演劇表彰

グランプリ

中学三年『苦勞判官大變記』

中学アカデミー賞

中学三年『苦勞判官大變記』

舞台美術賞

中学二年『夏色をさがして』

演技賞

高校二年『デート(未遂)』

少年役：藤田 翔



クマ出没注意

展 示

文化祭展示表彰

学 年 部 門

最優秀賞

高校二年学年展示 『花 火』

優秀賞

高校一年学年展示 『戦争・兵器』

中学一年学年展示

『身近なものなんじゃらホイ!』

ク ラ ブ 部 門

最優秀賞

地理部『黒部ダム』

優秀賞

天文部『宇宙開発と太陽』

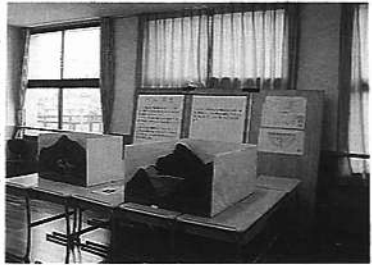
優良賞

ESS/ECL『English』

信者宗研『クローン』

前回の文化祭における展示で、最も特筆すべき点はやはり団体数・使用教室の多さだったろう。これは、中一学年展示が七つもの団体を出したこと、そして文芸部や写真部、また文化祭企画委員会などが新たに展示を行ったことによるところが大きいといえる。そのため、旧校舎であれば本校舎の教室の全てが埋まるほどの数だった。

ただ、それだけ団体数があったとしても、相変わらず展示には客が流れていないようだった。特に、展示以外に催物がなかった四階でその傾向が顕著で、三日間ともあまり人の気配を感じることができず、文化祭の雰囲気を感じられなかった。展示コンクールの結果をもとに今年の主要な団体の展示内容を分析してみよう。クラブ部門の最優秀賞は地理部だったが、展示として完成度の高さはここ数年で一番だったように思われる。

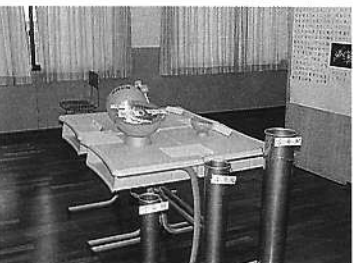


地形模型も昨年より規模が大きく、またふたつのダム模型も実に精巧に作られていたし、またなにより模造紙がきれいで読みやすい、写真も豊富に用いられていたことが要因であるようにだ。

優秀賞の天文部は、模造紙の内容や写真に関しては地理部に引けをとっていない。また優良賞の信者宗研とESSは、どちらもかなり難易度の高いテーマであったにもかかわらず、見に来た客にそう感じさせない説明だった。これは立派な展示だったという十分に値するのだ。しかしながら、コンクールで上位に食い込むためには視覚的な効果が必要なのだ。地

理部との明暗の分かれ目はそこだろう。視覚的に訴えるものがないと、いくらコンクールが相対評価とはいえ、それ以上の躍進は厳しいように思われる。

新たな団体が躍進した一方で、数年前まで最優秀賞・優秀賞の常連であった生物部が今年ついに賞を逃した。確かに(実際に細かく見るとういうわけではなく)の講評にあったように、毎年同じような展示ばかりしていると素人目には映る点はある。扱う内容が、他の受賞団体と比較すると多くの人にとっては馴染みが薄いという点で、より細かい配慮を持った補足説明が不可欠なのに、それが不足していたという向きもある。また、ここ数年は実物(他団体の模型に相当する)の展示が明らかに減っていたことも大きな要因だろう。今年には特にクラブ展示部門は久々のハイレベルな争いだったという点も逆風だったようだ。今まで展示を引いてきた老練団体だけに、来年度の巻き返しに期待したい。



学年展示部門に関して言うと、最優秀賞のHII学年展示も優秀賞のHII学年展示も、そのテーマについて解読できるものであったし、また一定以上の知識を持っている人でも楽しめたものであったと思う。また、HIIの尺玉の展示は普段なかなか目にすることの出来た、この団体の字の丁寧さには目を見張られた。来年度以降、学年展示を筆頭に多くの団体に目撃してほしい。

とはいっても、模造紙の字を書くのは一定の慣れが必要なのが実情だ。そんな模造紙を書く適任者がいなかったのかどうかは分からないが、今年の文芸部展示の模造紙はすべて活字だった。とはいっても、デジタル化が急速に進む現代においてもなお、本校における展示の模造紙の字は現在まで全その団体が手書きであったことは驚くべきことではある。ただ、確かに手に書かれた字には読みやすさがあったのだが、模造紙に書き目が立ち、また色分けもなかったもので、まだまだ改善の余地がある。来年度に注目したい。ここまでは昨年の主要な団体を紹介してきたわけだが、展示会場は、残念ながら本校生の(客としても)姿をなかなか見ることが出来ないのが現状だ。閑散としている要因として、ひとえに展示団体があまり自分たちのPRに力を入れていなかったり、また高校生が手持ち無沙汰になりがちな一日目の午前の段階で準備をしていたり等、展示団体が自らの首を絞めているという点にあることも否めないが、多くの人が「展示はつまらない」という偏見を持っているのもまた事実だ。確かに展示は、団体が申し合わせたかのように同じスタイルばかりではある。そんな中、今年の文芸部展示は、これまでの展示のスタイルに一石を投じたものであったことには間違いないし、事前のPRなど展示団体にとって見習うべき点は多々あった。

これまで紹介したように、ほとんどの団体はイラスト・写真・模造紙を多用して頑張っている。今年あまり展示を見ることがなかったという人は特に、来年度ももっと積極的に展示会場へ足を運んでみてはいかがだろうか。きっと何らかの新たな発見があるに違いない。

「放送局入らんへん?」と答えた。今にして思うと、あの会話で、私の学校生活が決定したのだから。それから、文化祭、体育祭、創立記念ミサ、追悼ミサ、タプロ、卒業式、終業式、入学式、始業式、チャリコン、一週りしてまた文化祭。放送局として、効果パートとして、全力で働いてきた。駆け上がり、こぼれ落ち、機材を運び、壁に激突し、頭を悩ませ、配線を変え、性に合う仕事だった。一つ一つが楽しかった。

視 点

勢いをつけて一気に駆け上がる。息切れ。運動不足を痛感しつつ、鍵を開け扉を引く。中には薄暗い。かつては窓があり、もともと明るかったなと過ぎた事を思い、少し気分が陰りが混ざる。とりあえず買ってきた消耗品を机の上に放り出して、並べた椅子の上に横になる。目前に迫った試験の勉強も、タプロの下準備もしなければならぬが、円町まで走っていきさか疲

模 擬 店

最優秀模擬店

高三有志『小 雪 庵』

優秀模擬店

高三有志『けんいちろう』

弓道部『おかだや☆タコ殴り』

総務・生徒会企画

チャレンジクッキング『中村藤吉本店』

洛星高校生クイズ『フィッシュ』

ミニサッカー大会『π 仙人』

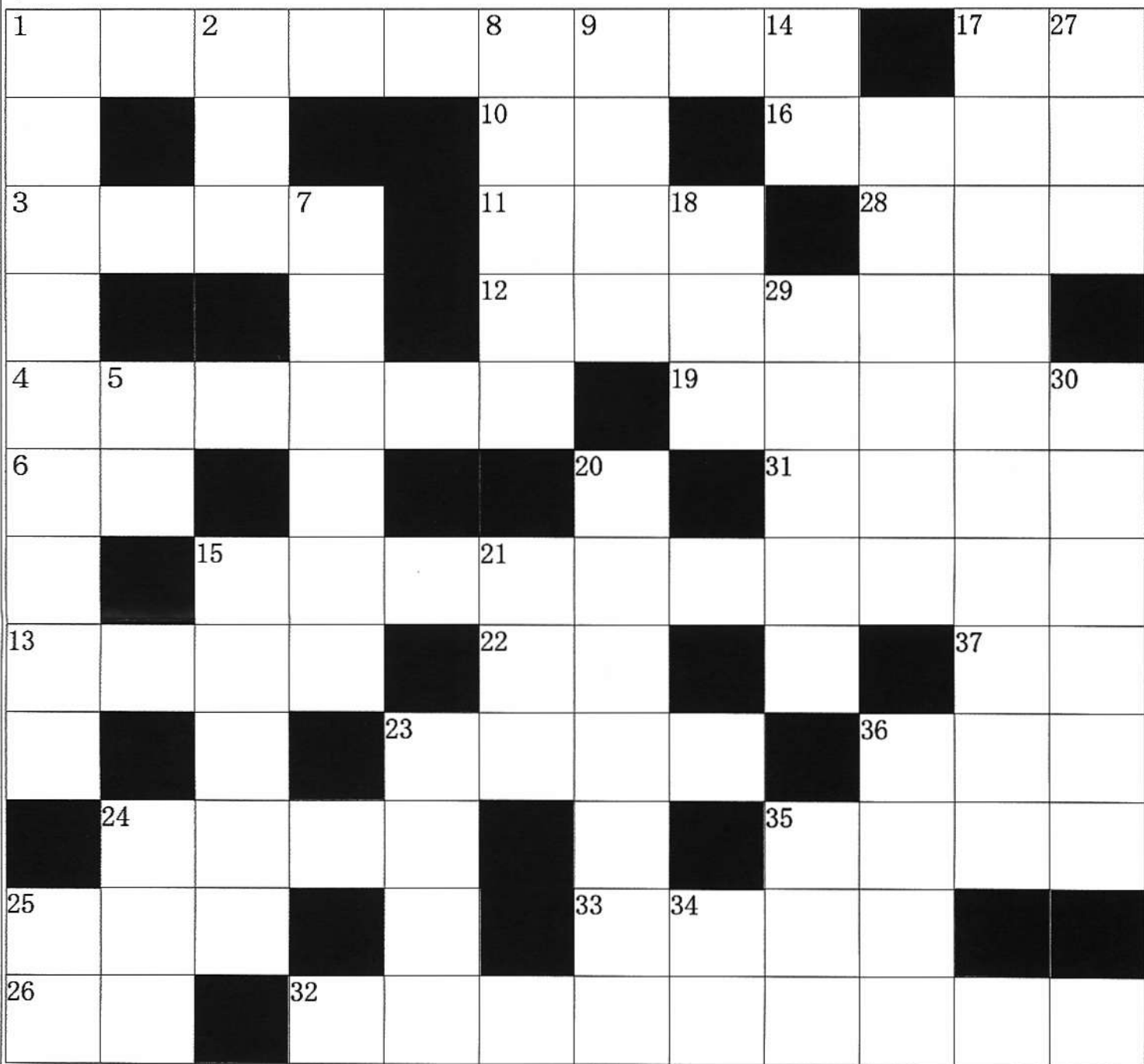
3 ON 3 『fujita40』

ラ イ ブ

最優秀ライブバンド『T.O.t.u.』



- 「タテのかぎ」
- 1・十二月二十三日
 - 2・いくつかの音符を切れ目なく滑らかに演奏することを示す音楽記号
 - 5・小麦を原料とした欧米の主食
 - 7・同じ高さであることを示す地図上の線
 - 8・三位になるともらえるもの
 - 9・圧力の単位
 - 14・家の中に誰もいないこと
 - 15・水位、流量を調節する機能のある堰
 - 17・ペットなどを飼育する人
 - 18・浦島太郎がもらったおみやげといえは○○○箱
 - 20・聖武天皇の定めた農地改革○○○○○○○の法
 - 21・「涅槃」↑何と読む
 - 23・最近吹く風、寒いです
 - 24・皮をはいただけの丸い木材
 - 25・船をこぐ道具
 - 27・甘くない柿の味
 - 29・音の大きさ
 - 30・現在の状況がわからず、見通しや方針が立たないことを指す四字熟語
 - 34・機械とかロボットとか障子やふすまの下にある溝のついた横木、踏んではいけません
 - 36・読んで字の如く人の力です
 - 37・「獅子吼」↑何と読む



「ヨコのかぎ」

- 1・このことです
- 3・特殊な靴で氷の上を滑るスポーツ
- 4・ドレスや舞台衣装にぬいつけて光らせる小片
- 6・舌のこと
- 10・穀物などをすりつぶす道具、もちつきにも使う
- 11・重さのこと
- 12・慣性の法則を利用した遊び
- 13・イギリスの首都
- 15・石油、石炭等の地下資源
- 16・奴隷を英語で
- 17・「河岸」↑何と読む
- 19・神の使い
- 22・吸盤のある魚、漢字で書く「沙魚」
- 23・すべてに通じて一樣なこと、等しいこと
- 24・色の三原色、シアン・イエローとあと一つは
- 25・石炭・さらし粉
- 26・木へんに反る
- 28・十二支で北西の方角
- 31・中華○○○○、フランス○○○○、日本○○○○
- 32・一五二〇年に発見された南米大陸南端の海峡
- 33・今回新聞局が大幅にオーバーしたもの
- 35・物質のない空間
- 36・自分から罪を認めて警察に出頭すること
- 37・七



編集後記

ショートクイズ

	29	33	19	5	17	
	31	14	20	12	10	18
	15	13	4	6	9	
	27	8	7	1	11	34
3	25	2	21	32	30	
	24	23	22	16		
	26					

1～34の数字をある意図によって並べましたが28は書き込まれていません。28は既に数字の入っている場所に入ります。その場所はどこでしょう。
ヒント：あるゲームのルールに基づいて考えてみて下さい
出題者：高校囲碁将棋部部長

というわけで、我がNEWS新聞局の第1号めである。当初は月一ペースを掲げていたが、局員不足という最大の障害が立ち上がった。しかし、我々の魂が持つプラズマ並みの熱さは微塵も落ちている。この新聞は、我々の魂の炉に洛星生徒としての誇りと新聞局員としての義務感を燃べ、決意という名の鉄槌によって鍛えられた。全校生徒よ、刮目して見よ。これこそ我が意志であり、我が言葉であり、我が拳である。
(小宮山加茂)

鳴呼、明日からは試験一週間前だ。職員室への立入が禁止され、校内に緊張感が漂い始めるだろう。私も気を抜いてはいられない。……ピンチだ。いや試験のことではない。明日から試験一週間前、即ち部活が行えないのだ。つまり、今日中に原稿を全て揃えなければならぬ。ちなみに現在下校時間まで残り二十分。……結論・無理です。……さっさとしよう。さっきから頭の中で悪魔が「諦めろ」と囁いているのが気にいらぬ。いままら遅いのだが根本的な原因として局員が少なすぎる。前号を出した時から一人も増えず、高二が二人。数人協力してくれる人々もいるが彼らも高二。相変わらず自然消滅しつつある。せつかなげなしの私財を投じて備品を充実させようというのに、後輩がいなくて使われぬまま朽ちていくのみにあつてしまふ。かき集めた机や椅子、校舎新築時に行方不明となつ

局長 HHD 中村彰宏
副局長 HHA 富岡 潤
顧問 荻野一茂 子安克実

さて、書いてある間にもう六時か。……おい相棒、牛丼食って帰るぞ。家で三つほど原稿書いてきてくれ。締切は明日の朝な。
(老臣)